

# 社会を明るくする運動

## はじまる

七月は「社会を明るくする運動」が行われます。今回の重点目標は「地域活動の推進による青少年の非行防止」です。

犯罪のない明るい社会をつくるためには、まず明るいよい家庭づくりが大切です。「自分の家庭からは犯罪者や非行少年をださない」という強い自覚のもとに、力を合せて社会環境を浄化し、犯罪や非行の要因を取り除くことが必要です。また、不幸にして犯罪や非行に陥った人びとに対しては暖かい愛の手をさしのべて、その立ち直りを助けてあげましょう。

### ◎ 非行は他人

#### ごとではない

青少年の非行防止についてはいろいろの機関、団体が努力していますが、最近中学生、高校生などの低年齢の少年や少女の非行が著しく増えており、その大部分は、ごく普通の家庭に育った人たちなのです。そして、これら少年達による集団万引、自動車や自転車の



窃盗、シンナー等有機溶剤の濫用、不純異性交遊などが多くなっています。青少年の非行は他人ごとではありません。

### 十五歳は

#### 「危ない年齢」

夏休み期間中は、規則正しい学校生活から「解放」されて、児童・生徒の生活リズムも乱れがちです。

少年非行の多くは、この長い休みの間に芽生え、育ち、秋の新学期のころには、学校ぎらいや家出、さらには盗み、傷害といった本格的



的な非行の道を歩み始めることになりま

す。少年自身の解放感と気のゆるみに加えて、「休みの間ぐらい」とか「うちの子に限って……」といった家庭の甘やかしが、とくに夏休みに非行がふえる原因となっています。

年齢的には十五歳が最も多く、次いで十六歳、十四歳と、これら、十四歳～十六歳の非行が全体の六割を占めるなど、最近とくに非行

の低年齢化がめだっています。また、男女別では、女子の非行が急増しており、増加率では男子の二倍の勢いで伸びています。

このような非行の特徴としては、動機が単純で、罪の意識の希薄な「遊び型」がふえ続けていること

です。万引や自転車・オートバイなどの「盗み」が男子の七割、女子の九割を占めていることが、その傾向を裏づけています。

### 「非行の芽」は

#### 早くつみとろう

「非行の季節」から子供を守るためには、保護者は子供のよき相談相手となって、家族全員が話し合う機会を出来るだけ多く持ち、日ごろから相互理解を深める努力が大切です。

夏休み中は、とくに次の点に注意してください。

#### 「生活のリズムを崩さない」

盆踊りや花火大会など夜間の野外行事が多く、夜遊びのクセがつきやすくなります。また、昼間は暑いこともあって、生活パターンは「夜型」になりがちです。このような生活のリズムは、夏休みが終わってもすぐに直りにくく、学

校ぎらいや家出に結びつき、非行化の原因となります。

第一に、子供の生活リズムを崩さないこと、そのためには、家族全員が規則正しい生活を心がけることです。

#### 「生活態度・服装」

##### 持ち物などに注意する

海、山でのキャンプやドライブ、アルバイトなど、「豊富」な自由時間を背景に、新しい仲間と知り合う機会がふえます。

そうした友達との付き合いを通して、仲間意識からくる「もたれ合い」のほか好奇心も手伝って、さまざま非行に走るケースが後を断ちません。

非行の芽は一刻も早くつみとることが大切ですが、そのための早期発見のポイントとなる目安をいくつかあげてみました。

◎警察のことを「サツ」といったり、周囲には分かりにくい隠語を使うことはないか。あるいは言葉づかいが乱暴になっていないか。

◎家の人に行き先を言わずに外出したり、帰宅時刻が不規則に遅くなったりしないか。

◎以前と比べて金遣いが荒くなったり、使い道を言わずに小遣いをせびったりしないか。

◎服装やヘアスタイルを必要以上に気にしたり、着方がくずれていないか。

### 「遊び」ながら

#### 安全教育を

七月は、八月と並んで一年のうちで最も交通事故の多い月です。なかでも目立つのが、いたましい子供の犠牲者です。

夏休みの解放感と暑さによる心身の疲れから、子供たちの注意力も鈍りがちなうえに、ドライバーも暑さと疲労で居眠り運転が増えるなど、子供への注意がおろそかになりがちです。

歩行中の子供の事故原因は、「飛び出し」（全体の六割）と「車の直前直後の横断」（二割）がほとんどです。

また、自転車乗車中の事故では、十四歳未満の死者が全体の二二パーセント、負傷者三一パーセントと大きな割合を占めています。

子供を交通事故から守るには、公園など安全な場所では遊ばせることとはもちろんですが、日ごろの安全教育が何よりも大切です。といっても「あぶないよ」とか「注意しなさい」といった抽象的なことばだけでは、子供は自分の行動に結びつけて理解することはできません。むしろ、子供の日常をよく観察しながら「遊び」に結びつけて交通ルールを教えるのが効果的です。ご家庭でいろいろ工夫してください。